

令和6年度 施設関係者評価報告書

認定こども園常磐会短期大学付属茨木高美幼稚園

I. 本園の教育目標

「ゆたかなこころ」と「たくましいからだ」をもち、主体的な幼児の育成をめざす
○力いっぱい遊ぶ明るく元気な子ども ○なかよく助け合って遊べる子ども
○心の優しい子ども ○素直に表現する子ども
○よく見、よく聞き、よく考え、自分の力でやりぬく子ども

評価基準

- A 計画を上回った実績となった
- B 計画通りの達成となった
- C 計画をしたが実績として達成しきれなかった
- D 計画を達成できなかった

II. 教育・保育における研究テーマ

- ◎「子ども理解と遊びの理解を深める」
- ◎「園内研修の充実を図り、保育の質の向上をめざす」

III. 令和6年度の教育・保育指標及び実績、評価について

1. 園児の確保

(1) 園児数、学級数(令和7年3月1日現在)

歳児	認可定員	認可定員内訳	1号認定	2号認定	3号認定	実員内訳	実員合計	組数	自己評価
1歳児	27	12			27	12	27	1	B
2歳児		15				15		1	
満3歳児	180	60	4	—		60	174	3	
3歳児			41	15				2	
4歳児			36	18		54		2	
5歳児			46	14		60		2	
合計	207	207	127	47	27	201		9	

評価指標	具体的な内容	令和 6 年度実績	自己評価
(2) 園児の確保の方法	・ 1 号認定児の定数獲得 ・ 2 号 3 号認定児についての市との調整	・ ホームページを認定こども園のニーズに応じてリニューアルを行った。地域への案内や入園説明会の受付、在園児保護者への情報提供、必要書類のダウンロード等が可能になった。 ・ 地域の子育て事業（未就園児親子ニコニコ、満 3 歳児保育）については、ホームページ上で紹介をしながら実施募集し、令和 7 年度 3 歳児の新入園児確保に努めた。 ・ 家庭と地域の連携事業の一環として地域のイベント（夏祭り等）への高美太鼓出演、地域の文化祭への作品出展など地域行事に参加した。 ・ 8 月下旬のホームページリニューアルにあわせて新入園児募集の広報を行った。令和 7 年度の入園説明会（予約制）は地域のニーズに沿って集団で実施し、たくさんの方に参加してもらえるよう計画した。また、各説明会では、園の施設開放・保育施設見学・個別の質問時間などを設けたことで、園を身近に感じ、好きな遊びから学ぶ教育保育方針への共感を得ることができた。認定こども園のしくみや個別の育ちの状況について等、保護者の不安に丁寧に応えたことで園児獲得に繋がった。 ・ 3 号認定児については茨木市の募集時期に合わせて、1 号認定児と別日程で入園説明会を実施した。2 号 3 号認定の利用決定者との問診会など、利用者調整の分散に合わせて順次、施設見学や説明、問診を実施した。パワーポイントを工夫し、こども園の良さと質の高い教育保育を目指していることを広めるとともに、定員充足を行った。次年度の入園予定児の育ちの状況の多様化と保育者確保の課題により、1 歳児クラスは年度途中で受け入れ人数を増やしていく予定である。	B
(3) 入園選考方法 令和 7 年度募集	・ 入園決定方法の保護者周知	① （1 号認定）入園説明会に参加の上、本園の教育保育方針を理解した上で入園を希望する専願より入園願書を受け付けた。まずきょうだい関係と未就園児ニコニコを優先し残りの枠を受け付けた。専願希望者を優先したことで 1 号認定児の入園辞退者は減少した。 ② （2、3 号認定） 茨木市の利用者選考方法に沿って行った。入所決定後、親子面談を実施した。 ・ ①②ともに、親子面接にて子ども観察を行った。療育を受けている子どもに関しては入園後の保育時間の相談や今後の連携について関係構築に努めた。アレルギー給食提供児保護者とは別日、給食業者、園の管理職、看護師と面談を行い、入園前の連携を図ることで安全管理に努めた。	A

2. 教育、保育の推進

(1) 認定こども園としての教育・保育の創造	① 1歳児から5歳児までの育ちの連続性を理解する ② 園内研修の充実を図り、保育の質の向上をめざす	・2年目を迎える認定こども園として、1歳児から5歳児までのそれぞれの育ちの理解をしながら、意図的に子どもの行き来ができるように保育の計画を見直した。 ・子どもの活動の一場面を写真やエピソード事例として挙げ、人や遊びへつながる育ちの連続性をよみとり、「つながる」子ども理解や保育の充実につなげた。 ・茨木市の非認知能力育成の取組みとも照らし合わせ、子どもの育ちを見極めながら保幼こ小中の育ちのつながりを意識した交流会に参加し、園内で啓発した。 ・教育課程・保育教育課程、指導計画のベースを基に日々の見直しを進めた。短期計画の記述の仕方や記録の残し方について保育者一人一人が再考し取り組んだ。 ・短期の計画では各担当者が「五領域」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を意識し長期を見据えた計画ができているか教育課程と照らし合わせてきた。 ・子どもが主体的に活動できるような援助や環境構成、行事のあり方について考えあう場を設け、学びあった。 ・1歳児から5歳児の好きな遊びの中での育ちを意識しながら、ホームページの在園児向けの「お知らせ」にて配信を行ったことで日常の幼稚園の様子、園の子どもへの願いが伝わってきたとの声が届いた。 ・1、2歳児クラスで行ったポートフォリオは保護者からは一人一人の育ちがよくわかれると好評であるが、作成する時間の確保は課題であるため、シフト上の人的配置を工夫した。 ・認定こども園となった附属三園と短大、大学が連携をとり、地域性を考慮しながらも積極的に研修会に受講し、互いの資質向上ができるよう図った。 ・園内研修の取り組みを年度末に「保育の芽」にまとめ発行する。 ・本園の保育内容や遊びがにつながるよう外部の専門講師に見ていただき、園内研修会の充実をすすめ保育者の資質向上に努めた。また、専門講師から見た高美幼稚園の保育の日々の環境の再構成についても討議を重ねてきた。 ・教職員の入退勤務時間を管理システムで打刻するようになった。働き方に対する教職員の意識が向上した。乳児、幼児の勤務シフトの影響を受けて、全教職員の話し合いの時間をもつことが難しいため、園内での共通理解を図るよう今後も工夫が必要である。	B
-----------------------------------	---	---	----------

(2) 園児の生活の充実と 安全確保	・ 特別活動 ・ キンダーカウンセリング事業と特別支援教育	・ 園の看護師が子どもの病気・ホームケアの簡易ガイドを作成したことで教職員が感染症などについての周知を図った。 ・ 「ほけんだより（冊子）」を看護師と連携して見直し、保護者、園の職員に配布し周知した。特に特定の感染症、疾病に関して、医療圧迫と保護者負担の軽減のため、保護者記入の登園届があれば登園を許可するよう変更した。 ・ 「わらべうた遊び」「英語遊び」「運動遊び」「絵画遊び」「太鼓遊び」を外部講師に年齢に応じた指導を受け、子どもたちが新しい遊びに出会うきっかけになるよう計画した。 ・ 常磐会学園の吹奏楽団演奏や人形劇、けん玉、LaQ など“遊びのスペシャリスト”として園内の遊びの刺激になるよう誘致した。次年度はさらに子どもの遊びの流行に合わせてスペシャリストを招くことでより豊かな経験に繋がるよう計画していきたい。 ・ 絵本コーナーの充実とともに絵本の貸し出しについて見直した。できるだけ多くの親子に絵本に触れてもらえるよう毎月絵本の貸出し期間を設け、降園時間の多様化する親子が触れ合いながら絵本を選んだり読んだり、一緒に返却をしたりする機会につながった。毎月貸出期間は何回も借りることができることもあり継続した利用者が増えた。 ・ インクルーシブ教育について担任だけでなく、常磐会学園大学と連携し様々な特性、支援の必要な子どもに対する理解が深まりみんなが過ごしやすい園内環境と指導方法を見直した。 ・ 関連機関との連携を密にしていけるよう定期的なやりとりを継続していくことで、保護者の不安軽減や日常の個別指導への専門性の向上につながった。 ・ 茨木市から派遣される巡回相談は年度途中で回数を増やし有効に活用したり、令和6年度茨木市から派遣された特別講師による支援児についての指導を定期的に受けたりすることで専門性を学び子ども理解につながりよりよい環境の再構成に努めるようになった。	B
(3) その他	・ 未就園児親子保育「ニコニコ」 ・ 未就園児親子園庭開放「ピヨピヨ」 ・ 子育て相談「モシモシ」	・ 「ニコニコ」の募集対象児は、令和3年4月2日～令和4年4月1日生まれで他の幼稚園・保育所に在籍していない幼児とし、1クラス6名までとした。在園児との遊びの交流を行った。 ・ 地域の未就園児への園開放「ピヨピヨ」は対象年齢を4月から0歳児からに拡大した。認定こども園の開放義務化に沿った開催回数、対象親子、人数を見直し、園の職員が意識的に園の保育内容を伝えたり、園内交流を図ったりしている。 ・ 子育て相談「モシモシ」は、認定こども園の子育て支援事業対象として地域の未就園児をもつ親子を対象とした子どもの育児や養育に対する相談を受けている。「ニコニコ」	

	・ 預かり保育の充実 「パオパオ」 ・ 小中学校や地域との連携	や「ピヨピヨ」など多様な相談時間を設けることで相談しやすい雰囲気を心がけている。相談内容によっては、キンダーカウンセリングや地域の相談窓口、専門機関につないだ。 ・ 1 号認定児の預かり保育利用は、家族の通院、小学校の参観、懇談等の行事、スポーツクラブや英語教室の課外活動の空き時間の利用が多く、年間で延べ約 4,000 人が利用した。昨年度に引き続き、新 2 号認定児の利用は保護者就労時間のみで毎日の利用は少ない家庭が多い。 ・ 地域の小中学校の交流会へ参加し、地域の現状と取り組みについて意見を交わし本園の教育力向上につなげた。 ・ 家庭と地域の連携事業の一環として高美太鼓、地域小学校の夏祭りの和太鼓出演、地域文化祭への作品出展など地域行事に積極的に参加した。 ・ 地域に開かれる幼稚園をめざしているが見える化を不快に感じる住民からのご意見や登降園時の親子の話し声やグレーチングを歩く際の足音についてのご相談があり、その都度真摯に対応した。 ・ 1 階エントランスの利用を見直し、低年齢児も遊べる遊具やゆったり過ごせるスペースを確保したことで、地域の未就園児から在園児親子まで幅広く遊び場として活用している。	B
--	--	---	---